



中之町幼稚園教育目標

げんきな子 かんがえる子 なかよくする子 がんばる子



港区立中之町幼稚園 2月 園だより



中之町幼稚園ホームページ



X



令和7年1月28日

港区立中之町幼稚園

園長 大橋 美都子

氷との関わり

園長 大橋 美都子

大寒を過ぎ、「1月は行く…」というようにあっという間に1月も終わり立春を迎えようとしています。子どもたちは今、劇ごっこに取り組み、生活発表会で見ていただくことを楽しみにしています。

幼稚園の池（「にこにこいけ」という名が付きました）に氷が張った日のこと、最初に見付けた3歳児は、園の池が凍るという初めての出来事に何が起きているのか不思議そうに見ていました。4、5歳児は手で氷を取ろうとします。初めは素手で取ろうとしますが、あまりに冷たい！誰からともなくスコップ、シャベル、おたま、フライ返し、トレイ等々砂場の道具をそれぞれ持ってきたのです。道具を持つと直に触ることなく、遠くの氷も手繰り寄せられます。しかし、引き上げられない…。子どもたちは大きな破片を手にしたくて必死に考えます。「僕たち持ち上げてから、そっち引っ張って！」などと協力する姿も見られました。何度も氷がスルスルと滑り落ちたり、引き上げるタイミングが合わなかったり苦戦していましたが、大きい破片が取れると大満足の様子でした。ほかにも取った氷を踏む感触を楽しむ幼児、手のひらに乗せて溶けていく様子を見る幼児、氷越しに空を眺める幼児、わざと砂をまぶしてチョコチップクッキーにする幼児……ほんの数十分の出来事ですが、冬ならではの自然現象との関わりで、子どもたちは諸感覚で様々なことを感じたり、思いを巡らせ考えたりしていることが分かりました。

刺激を受けた3歳児も、同じように道具を使って氷と格闘する日もありました。朝、さんざん氷で遊んだ日の食後、「氷、またできてるかなあ？」と確かめに行く幼児がいました。冷凍庫の製氷のように、次々と氷ができるとでも予想したのでしょうか。池に行き、凍っているかどうか確かめます。人差し指を池にそっと入れるという方法でした。何とも確実な方法を考えましたね。その幼児は「今は水だった…」とつぶやいていました。

何でもテレビやスマホで情報が得られる現代、幼稚園では子どもたちが自然と直接触れる機会を大切にしています。今後もどのような事象と出会い、どのようなことを感じ、考えているのかを探っていきたいと思います。



大きな氷が取れたあ！



もうすぐ節分。多種多様なオニが出現中です。

